

## フィリピン・ミンダナオ和平合意で新たな一歩を

01



マニラのマラカニアン宮殿で行われた包括和平合意の署名式



JICAの支援で開設されたミンダナオの職業訓練所で学ぶ女性たち

肥沃な大地と鉱物資源に恵まれ、未知なる成長の可能性を秘めるフィリピン南部のミンダナオ島。しかし島の南西部でフィリピン政府と反政府グループとの対立が40年にわたり続き、国内でも最も貧困に苦しむ地域となっていました。

しかし、2003年には政府とモロ・イスラム解放戦線(MILF)が停戦合意に至り、和平合意に向けた交渉が続けられてきました。そしてつい3月27日、首都マニラのマラカニアン宮殿で包括和平合意が結ばれました。当日はフィリピンのベニグノ・アキノ3世大統領、MILFのムラド・エブラヒム議長、和平交渉の仲介役を務めたマレーシアのナジブ・ラザク首相の立ち会いの下、政府とMILF双方の和平交渉団長がミンダナオ包括和平合意文書に署名しました。

06年以降、国際社会の中でも先立って、ミンダナオの和平交渉のプロセスに貢献してきた日本。フィリピン・ミンダナオ国際監視団の社会経済開発部門へのJICA職員の出遣や、和平後を見据えた開発の担い手の育成、学校建設などのコミュニケーション開発、和平関係者の意見交換の場づくりなどを通じて、ミンダナオ紛争の影響を受けた地域への支援に取り組んできました。

この記念すべき日には、在フィリピン日本国大使館の卜部敏直大使らに加え、JICAからは田中明彦理事長が立会人として出席。翌28日には、田中理事長がアキノ大統領とムラド議長と面談し、和平定着に向けた課題、今後必要な支援の在り方などについて、意見を交換しました。

今回の和平合意は、2016年に新たな自治政府である「バンサモロ政府」を創設することなどを定めています。その発足を見据えて、すでにJICAは昨年7月からバンサモロ基本法案の策定、組織・制度整備、人材育成、開発計画策定などを支援しています。

## 「国際協力レポーター2014」募集中!

02



ルワンダで安全な水の普及に取り組む青年海外協力隊員を視察する国際協力レポーター

これまで180を超える国と地域で実施されてきた日本の政府開発援助(ODA)。しかし日本で暮らしていると、その事業の実態や成果、現場で汗を流す日本人の姿がよく分からない...という人も多いのではないのでしょうか。この夏、開発途上国を、国際協力レポーターとして訪れ、あなたの目で現状を確かめてみませんか?

【派遣国・日程】エチオピア(8月31日~9月7日)、東ティモール(9月7日~13日)各10人

【応募資格】日本に在住し、日本国籍を有する満18歳~69歳(2014年4月1日現在)までの健康な方

【募集締め切り】6月4日(水)必着

【応募方法】応募用紙に必要事項を記入し、郵送かメールで送付

【問い合わせ】国際協力レポーター2014運営事務局

【TEL】03-3556-1592

【URL】[www.jica.go.jp/hiroba/menu/reporter/](http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/reporter/)

## 日本の国際協力はどのように評価されているの?

03



全ページをJICAのホームページ([www.jica.go.jp/](http://www.jica.go.jp/))で公開

2014年に60周年を迎えたODA。その間に国際協力を取り巻く環境は大きく変わり、近年では「ミレニアム開発目標(MDGs)」を引き継ぐ「ポスト2015開発アジェンダ(ポストMDGs)」の枠組みに関する議論が注目されています。

日本のODAを二元的に担う開発援助機関であるJICAは、開発途上国が抱える課題の解決に向けて、オールジャパンで関係者と共に歩みを進めています。今後より効果的な支援を行うためには、過去・現在・将来の事業の評価を適切に行い、そこから得られた教訓を生かしていかなければなりません。そこでJICAは年一回「事業評価年次報告書」を作成し、各事業の評価を取りまとめています。

2013年度版の第1部では、JICAの事業評価の仕組みや評価の向上に向けた取り組み、第2部では評価結果の概要として事後評価やテーマ別評価などから導き出された成果、課題、教訓、提言などを知ることができます。JICAが世界各国で取り組んできた事業の歩みをぜひご覧ください。